

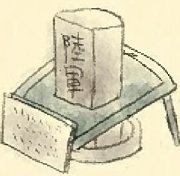
富津岬軍用鉄道

青堀～富津岬の5kmの間には軍用鉄道が敷設されていた。この鉄道は、大正13年にフランスに発注した列車砲の常備基地を富津岬に設置することになったため敷設されたといわれる。列車砲は昭和4年にフランスのマルセイユから横浜港に到着、梱包されたままで貨車で富津へ運ばれ、組み立てられ発車実験が行われた。昭和20年の終戦で軍用鉄道は廃止され、敷地は元の地主へ返還された。終戦後撤去された線路は、久留里線にまわされたと伝わっている。



「富津岬軍用鉄道境界標柱」

富津埋立記念館前にある「陸軍」と書かれたこの標柱は、富津岬軍用鉄道の敷地の境界に建てられていたもので、新井・西川境の畑地で見つかった。



富津岬と東京湾要塞の歴史的背景

日本は江戸幕府による鎖国により、長期間海外との外交を閉ざしていた。嘉永6年アメリカのペリー提督が率いる艦隊が浦賀に来航したことにより、早急な江戸湾防備を迫られ、その2年後には品川台場が完成した。ペリーの来航以来、頻繁に外国船が来航するようになったため、明治新政府は東京湾海防計画に取り組むようになった。東京湾を囲む一帯に要塞が整備され、富津岬に造られた元洲砲台をはじめ、観音崎と富津岬を結ぶ線に海上砲台(海堡)が建設され、東京湾要塞の一部として重要な役割を担うこととなった。

※この想像画は、富津岬の歴史を皆様にわかりやすくお伝えするために、東京湾海堡ファンクラブが制作したものです。島内には大砲等の構造物はなく、一般立入禁止区域ですので、富津公園内の展望塔からご覧ください。

浦賀水道に浮かぶぶつらぶつと島、第一海堡・第二海堡は、かつて海外からの侵攻に備えて、国土防備を図るために、明治～大正時代にかけて3つ築かれた人工島である。第二海堡の南方に第三海堡も存在したが、東京湾に出入りする船の航行に障害となつたために、平成二一～一九年に撤去された。第一海堡と富津岬はかつて地続きであったため、干潮時には歩いて渡ることができた。現在はいずれも一般の立入は禁止されている。※この絵図は資料と情報提供を元にした想像画です。現地に大砲などの復元物はありません。



第三海堡(横須賀市地籍:撤去)
第三海堡の南方約2,600m地点、水深39mの場所に築かれた。明治25年8月に着工され、大正10年3月竣工したが、わずか2年後の関東大震災で水没し機能を失った。航路の障害となったために平成12～19年に撤去され、遺構の一部が横須賀市の「うみかぜ公園」等に展示されている。



関東大震災前の第一海堡
左翼部分には28cm榴弾砲が2門ずつ7組砲座が並んでいたが、震災後に左翼部分の大改修が行われ、第二海堡から15cm口径ノン砲入砲塔2基が移設され、現在の姿になった。

東京湾要塞 富津岬

第一海堡・第二海堡のかつての姿を復元(想像画)



猿島砲台(横須賀市地籍)



第二海堡(富津市地籍:立入禁止)
第一海堡の西方約2,600m地点、水深10～20mの場所に築かれた。明治22年7月に着工され、大正3年6月、25年もの歳月を要して完成された。面積約41,300㎡、左翼長190m、右翼長270mを計り、総工費79万円以上を要した。(現在は国土交通省関東整備局の管理)

右翼観測所
第一照明所
第一砲台(12cm速射カノン4門)
中央凸角砲座(7.5cm速射カノン砲2門)
第二照明所
第二砲台(15cmカノン砲入砲塔2基)
左翼観測所
第三砲台(28cm榴弾砲4門)
左翼端砲座(7.5cm速射カノン砲2門)
機関砲座(機関砲10門)
第一照明所
第一砲台(12cm速射カノン4門)
中央凸角砲座(7.5cm速射カノン砲2門)
第二照明所
第二砲台(15cmカノン砲入砲塔2基)
左翼観測所
第三砲台(28cm榴弾砲4門)
左翼端砲座(7.5cm速射カノン砲2門)
機関砲座(機関砲10門)
第一照明所
第一砲台(12cm速射カノン4門)
中央凸角砲座(7.5cm速射カノン砲2門)
第二照明所
第二砲台(15cmカノン砲入砲塔2基)
左翼観測所
第三砲台(28cm榴弾砲4門)
左翼端砲座(7.5cm速射カノン砲2門)

第一海堡(富津市地籍:立入禁止)
富津岬沖の水深4～6mの海中に築かれた。明治14年8月に起工、明治23年12月に9年4ヶ月を要して完成した。面積約23,100㎡、左翼長230m、右翼長75mを測り、総工費約145万円を要したとされる。現在は、南側の前壁が進み原形が失われつつあり、島内の安全が確認されていないため立入禁止となっている。関東大震災後に左翼部分の大改修が行われ、第三海堡から15cm速射カノン入砲塔2基が移設された。上記の想像画は改修後のものである。

想像復元 富津公園ヘリテージング

富津射場

陸軍兵器行政本部第一陸軍技術研究所富津試験場跡
(千葉県立富津公園 富津市富津2280番地先)

ヘリテージングとは、戦前期に造られた近代遺産を巡る歴史観光を指します。富津公園は、昭和26年に県立富津公園として開設されるまでは、旧日本陸軍の射場として使用されていました。広大な園内には、さまざまな建造物が残されています。中でも、真っ白な展望塔がそびえ立つ中の島は、島全体が要塞となっており、毎日新聞社主催のヘリテージング100選（2006年）にも選定されています。戦跡たちがひっそりとたたずむ姿に想いを馳せながら、富津岬の過去へタイムトラベルしませんか…



イテ塔(ハイカラ山・遺構有)
鉄砲の俯角射撃試験の銃砲座

米軍初上陸地
昭和20年8月30日午前5時58分約300人のアメリカ兵を乗せた上陸用船艦が上陸し、午前6時36分下洲海岸にアメリカ国旗を掲揚した。(海岸付近に碑有)

南砲列
小銃・機関銃などの命中試験の発射場、連続発射による耐久試験も行う。

監的場
南放列からの命中試験で、300m、600m、1000m、1500mそれぞれの命中率を弾痕により調査した。

旗吹き流し
危険防止、気象観測。

斜堤(盛土)
攻め手側の視野を遮り、望遠筒等の土壁からの射撃の死角を失くす効果があった。函館五稜郭の一部にも設けられている。

12cmカノン砲座

28cm榴弾砲6門

地下掩蔽部

砲廠
大砲(野砲)機関砲を格納した。

器具庫
各種器具、高級なものは除湿器に入れ格納した。

西書宅

事務所
本部事務所、当時鉄筋コンクリート建築は近隣町村で唯一のもの。

弾丸庫

装薬調整所

火薬庫
各種の薬弾が格納された。

監的場(遺構有)
左の塹からは射入管に向けて発射試験を行った。右の塹からは水中弾道試験を行った。

列車砲砲座
約90度の角度で2カ所設置されたと思われる。

試製41cm榴弾砲
陸軍最大口径の火炮で、射程距離は20km。大正15年に完成し、試験が行われた。昭和17年に中国・ソ連国境にある虎頭要塞に配備され、昭和20年8月9日のソ連軍侵攻の際には実戦に参加した。

列車砲車庫
列車砲の整備と格納を行った。地下壕であったと伝わる。

90式24cm列車カノン砲
日本で唯一の列車砲でフランスのシュナイダー社製である。昭和4年に日本に到着し、富津で組み立てられた。射程距離は50.120mで、試験では館山市の市良沖まで砲弾が達したという。昭和17年に中国・ソ連国境にある虎頭要塞方面に送られたが、実戦に使用されずに敗戦を迎えた。(想像図は列車砲のみ記載。弾薬車と動力車が連結していた。)

材料庫
鉄砲の命中試験用の布的、ロープ・木材などの格納庫

検査所
小銃・機関銃・機関砲などの弾丸の銃口前25mの速さ(初速)を測る。ここで測定されたものが日本陸軍の兵器取扱要領に性能として示された。

実験室
風洞などの施設により弾丸の空気抵抗などを測定。

車庫
試験場内には軽便軌条が縦横に走り各車庫に通じ運搬にはトロッコを使用した。

見晴館
技術本部の宿舎。2階建てで、別荘として使用されていた建物を看守の官舎として使用した。

ここから対岸までケーブルが設置されていた。

北砲列
南砲列が命中試験に使用したのに対し、ここは耐久試験にのみ使用された。

射込通路
耐久試験の弾丸を防ぐためコンクリート塹で遮蔽。

※この想像画は、当時の様子を皆様によりわかりやすくお伝えするために資料と情報提供を元に東京湾海堡ファンクラブで制作したものです。現地には数か所の遺構がありますが、大砲等の構造物はありませんのでご了承ください。

制作：東京湾海堡ファンクラブ 2018/09
協力：富津湾の会・ピーススタッフきみつ 他
富津公園についてのお問い合わせ：富津公園管理事務所 TEL0439-87-8887

1500m監視所(遺構有)
射撃試験の時、赤旗を掲げ危険防止を監視